



天保七申歲  
丙春新板

13 遠  
1971

上

力  
福



力瘤三八異傳

雪磨作

上之卷

景松画

鳥吉版



螢小光 なぐくも人 賞せしむるは又人の手小苦中。人勲り  
才あり 藝云 ふうるそて一生を苦しむ最多。草双紙の作せるもど  
る野良の螢ゆ才といひ藝といふ程の重みあるけれど似つありげな  
虚言とばゆと子供衆を教導由あり。ほいあそ所々賞翫せし  
後、その光をも無理無体と思へんと思へ人の為み己が心を苦め  
何ら生涯を過と餘を怜悧る沙汰とわづらばと吾ら其非を  
悟きども吁とせう。好ま病後の皮とや捨置まらば

天保申春

墨川亭雪麻呂

ちりし

114



佐佐羅 三八  
 剛力  
 荒牛  
 荒牛  
 荒牛



方夫乃  
 方夫乃  
 方夫乃  
 方夫乃  
 方夫乃







龍の尾は  
 尾の長は  
 尾の節は  
 尾の鱗は  
 尾の毛は  
 尾の色は  
 尾の形は  
 尾の味は  
 尾の臭は  
 尾の音は  
 尾の光は  
 尾の影は  
 尾の力は  
 尾の徳は  
 尾の道は  
 尾の徳は  
 尾の道は



龍の尾は  
 尾の長は  
 尾の節は  
 尾の鱗は  
 尾の毛は  
 尾の色は  
 尾の形は  
 尾の味は  
 尾の臭は  
 尾の音は  
 尾の光は  
 尾の影は  
 尾の力は  
 尾の徳は  
 尾の道は  
 尾の徳は  
 尾の道は

龍の尾は  
 尾の長は  
 尾の節は  
 尾の鱗は  
 尾の毛は  
 尾の色は  
 尾の形は  
 尾の味は  
 尾の臭は  
 尾の音は  
 尾の光は  
 尾の影は  
 尾の力は  
 尾の徳は  
 尾の道は  
 尾の徳は  
 尾の道は

龍の尾は  
 尾の長は  
 尾の節は  
 尾の鱗は  
 尾の毛は  
 尾の色は  
 尾の形は  
 尾の味は  
 尾の臭は  
 尾の音は  
 尾の光は  
 尾の影は  
 尾の力は  
 尾の徳は  
 尾の道は  
 尾の徳は  
 尾の道は

龍の尾は  
 尾の長は  
 尾の節は  
 尾の鱗は  
 尾の毛は  
 尾の色は  
 尾の形は  
 尾の味は  
 尾の臭は  
 尾の音は  
 尾の光は  
 尾の影は  
 尾の力は  
 尾の徳は  
 尾の道は  
 尾の徳は  
 尾の道は



大  
山

大山の山頂に立寄りて見れば、遠くは雲霞に霞んで、近頃は松竹の森に籠めて、自然の清涼と静寂の趣、心ゆくまで堪能せしが、予も亦、これに耽溺する所ありて、一日を此の山に費す。予の所居する所の山頂、昔は名僧の隠居の所なり、今も猶、その遺蹟を尋ねる可し。

大山の山頂に立寄りて見れば、遠くは雲霞に霞んで、近頃は松竹の森に籠めて、自然の清涼と静寂の趣、心ゆくまで堪能せしが、予も亦、これに耽溺する所ありて、一日を此の山に費す。予の所居する所の山頂、昔は名僧の隠居の所なり、今も猶、その遺蹟を尋ねる可し。



大山の山頂に立寄りて見れば、遠くは雲霞に霞んで、近頃は松竹の森に籠めて、自然の清涼と静寂の趣、心ゆくまで堪能せしが、予も亦、これに耽溺する所ありて、一日を此の山に費す。予の所居する所の山頂、昔は名僧の隠居の所なり、今も猶、その遺蹟を尋ねる可し。

大山の山頂に立寄りて見れば、遠くは雲霞に霞んで、近頃は松竹の森に籠めて、自然の清涼と静寂の趣、心ゆくまで堪能せしが、予も亦、これに耽溺する所ありて、一日を此の山に費す。予の所居する所の山頂、昔は名僧の隠居の所なり、今も猶、その遺蹟を尋ねる可し。





1. The first thing I  
 saw when I came  
 out of the gate  
 was a man in a  
 white robe  
 who was  
 looking at me  
 with a  
 very  
 strange  
 expression  
 on his  
 face.



The man  
 was eating  
 very  
 slowly  
 and  
 with  
 a  
 very  
 sad  
 expression  
 on his  
 face.



The man  
 was eating  
 very  
 slowly  
 and  
 with  
 a  
 very  
 sad  
 expression  
 on his  
 face.



Handwritten text in a cursive script, likely a list or index, located at the top of the right page.



Handwritten text in a cursive script, located below the illustration on the right page.

Handwritten text in a cursive script, located at the top of the left page.



Handwritten text in a cursive script, located below the illustration on the left page.





湖  
喜  
亭  
異  
傳  
通

墨  
川  
亭  
所  
廣  
作

三  
異  
傳  
下

ちかきん 下巻 三八

田舎傳 下巻

申北巻

雪上呂作

景松画

葛の吉敷



此の世の事は  
さかしの世の事と  
同じなりけり  
さかしの世の事  
もさかしの世の  
事とて思はれり  
さかしの世の事  
もさかしの世の  
事とて思はれり  
さかしの世の事  
もさかしの世の  
事とて思はれり  
さかしの世の事  
もさかしの世の  
事とて思はれり



この世の事は  
さかしの世の事と  
同じなりけり  
さかしの世の事  
もさかしの世の  
事とて思はれり  
さかしの世の事  
もさかしの世の  
事とて思はれり  
さかしの世の事  
もさかしの世の  
事とて思はれり

此の世の事は  
さかしの世の事と  
同じなりけり  
さかしの世の事  
もさかしの世の  
事とて思はれり  
さかしの世の事  
もさかしの世の  
事とて思はれり  
さかしの世の事  
もさかしの世の  
事とて思はれり  
さかしの世の事  
もさかしの世の  
事とて思はれり



この世の事は  
さかしの世の事と  
同じなりけり  
さかしの世の事  
もさかしの世の  
事とて思はれり  
さかしの世の事  
もさかしの世の  
事とて思はれり  
さかしの世の事  
もさかしの世の  
事とて思はれり  
さかしの世の事  
もさかしの世の  
事とて思はれり















Vertical handwritten text on the left margin of the top page.

Small vertical mark or character at the bottom left of the page.



Vertical handwritten text on the right margin of the top page.

Small vertical mark or character at the bottom right of the page.

Handwritten text in a vertical column on the left side of the page, written in a cursive style.



Handwritten text in a vertical column on the left side of the page, written in a cursive style.





吉原屋 巻末巻 菊屋三軒  
三丁 西久保屋  
坂本氏  
仙女香  
艶美香  
美衣香  
一色平八郎  
上京  
用也

天保七丙申新板類史録

歌川景松画



墨川亭雪庵呂作

意馬心猿

音成書  
未成

右より本巻後十冊  
雪六呂作  
一重信画

天保七丙申中  
正月刊板

合鏡 葛

柳亭種彦作  
香蝶樓因貞画

筆の権三  
時世粧 鶯袖花鎗梅

墨春亭梅庵作  
五雲亭貞秀画

浄瑠璃姫  
貞標話

十二段四季繪合  
墨春亭梅庵作  
全冊画

夕霧勝  
伊左門 松小藤屋福雛形

同  
哥川景松画

清川  
文七 常盤冰鳥五紋

同  
全冊作  
画

怪談  
花雪吹

同  
松亭金水作  
画

忠臣藏  
替伊呂波

墨川亭雪庵作  
全冊  
画

力瘤三八  
異傳

同  
墨川亭雪庵作  
画

義艶仙女香

一卜色  
四十八銅  
坂本氏

取次所

京橋南傳馬町一丁目  
紅英堂葛屋吉藏版

黒油美香



